

THE **A** MUSEUM

Vol.7-3 第21号 2013.3.1

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

特別展

発掘された の道具



えー！木器？土器じゃないの

2013年
3月23日(土) ▶ 5月6日(月・振替)

休館日：月曜日(4月29日・5月6日は開館)
時 間：9:00～16:30(観覧受付は16:00まで)
観覧料：一般600円、高校生・学生300円
中学生以下と65歳以上の方・障害者手帳等をお持ちの方は無料

【主催】埼玉県立歴史と民俗の博物館
【後援】新田新築されたま館/PM NACK 5 /埼玉新聞社/埼玉新聞社/アリス/東京新聞社/いたま支店/
日本経済新聞社/いたま支店/毎日/いたま支店/毎日新聞社/いたま支店/読売新聞社/いたま支店
【協力】TK ッパース

発掘調査で、土器や石器が出土する事はおなじみですが、木器はあまり聞きなれない言葉かもしれません。土器が粘土で作られるのに対して、木器は木で作られたものを言います。木器が出土する遺跡は限られ、旧河川や低湿地など水が常にある環境や、水生植物が長年堆積して厚い層となって、地表の空気を遮断していないと木器は腐って残り

ません。さらに出土した後は保存処理を行わないと、後世に残し展示する事はできません。

今回の特別展では、縄文時代から中世までの木器を展示し、明治から昭和初期まで使われた国の重要有形民俗文化財「北武蔵の農具」との比較で、道具の原点が原始・古代の木器にあることを知っていただきたいと思います。



I 暮らしと戦い

原始・古代から現在まで、食料の獲得と消費が人の暮らしの中心となっています。

縄文時代と弥生時代の陸上では弓矢を使用した狩りが行われたことが、出土する弓や銅鐸に描かれた絵画からわかります。また、水上では丸木舟が漁撈のため使用されるとともに、物の運搬や集落間の交易にも用いられたと考えられます。



丸木舟 伊奈氏屋敷跡（伊奈町）

縄文時代の弓には、装飾を施した飾り弓がある一方で、白木の丸木弓もあります。これらは祀り用と実用の使い分けがあったのかもしれませんが。

身を飾る道具として、櫛が発見されています。縄文時代から古墳時代の櫛は、髪をすくとともに髪留めに使われる豎櫛（豎に長い櫛）が中心ですが、奈良・平安時代になると横櫛（横に長い櫛）へと変化します。



飾り弓 寿能泥炭層遺跡（さいたま市）

弥生時代になると、稲作農耕が開始され、それに伴う土地を巡る争いが多くなっていっ



櫛 後谷遺跡（桶川市）



木製短甲（左 背当 右 胸当）
伊場遺跡（静岡県浜松市）

た事が、戦いの目的で製作された様々な武器が増える事からうかがえます。その中でも浜松市伊場遺跡から出土した木製短甲（鎧）は、幾何学文様の装飾

が美しい日本で最古級の鎧です。

古墳時代から奈良・平安時代になると、鞍や鎧など馬具が出土することから、馬が官人や武人などの交通手段や戦いに使われていた事がわかります。

容器類は土器とともに食物や供え物を盛り付けるものとして、多くの種類があります。縄文時代には、黒漆や赤漆を使い彩色されるものも多く、弥生時代から古墳時代には鉄器の普及



一木高坏 池子遺跡群（神奈川県逗子市）

など加工技術の進化によ

って器種も増加します。中世には、現代と形が変わらない漆器椀を使用するようになります。

II 耕す・木を切る・布を織る

弥生時代になると稲作農耕の伝来とともに、多様な種類の農具も同時に伝わります。鋤はスコップのように地面にさし込んで土を起す道具です。一本の木からつくる「一木鋤」と柄と身を



二又鋤 三ノ耕地遺跡
(吉見町)

組み合わせる「組合せ鋤」があります。また、鋤も土を掘り起こす道具ですが、柄を持って地面に振り下ろし手前に引いて使います。広鋤・狭鋤・又鋤など、種類も豊富です。

刃先に鉄器を使用するようになるのは、早いところで弥生時代後期以降と言われています。

木を切る斧には、^{たておの} 縦斧と^{よこおの} 横斧があります。縦斧は直柄（まっすぐな柄）に対して斧の刃が並行に付くもので、横斧は、^{ひざえ} 膝柄（くの字に曲がった柄）で刃が柄に対して直行するものをいいます。

また、弥生時代になると、^{たて} 経糸に^{よこ} 緯糸を通して織る^{じばた} 地機（原始機）による^{はたおり} 機織が始まります。機織機の全体が揃って出土した例はありませんが、^{ぬのまきぐ} 経糸を固定する布巻具や^{よこうちく} 経糸に通した緯糸を整える緯打具などが出土しています。また、^{なかづつ} 経糸を上下に分ける中筒を支える中筒受けが、古墳時代後期の行田市池守遺跡から出土したのは、国内最古の例になります。

III 建築部材

建築部材も木器の範疇で考え、^{はり} 柱や^{とびら} 梁・^{はしご} 扉・壁・梯子などがあり出土量は多くありません。古墳時代前期の茂原市国府関遺跡から出土した梯子は、高床の倉庫にのぼるために使われました。また、太田市中溝・深町遺跡では、^{ほったてはしらたてもあと} 素掘りの穴に柱を立てた掘立柱建物跡から、柱が沈み込まないように敷いた^{そばん} 礎板とその上に柱が検出されています。



梯子 国府関遺跡（千葉県茂原市）

IV 祭祀と祈り



木柱 甲斐銚子塚古墳
(山梨県甲府市)

古墳では、埴輪の祭祀が行われていた事が多く、の事例から分かっていますが、埴輪だけではなく木製品の出土例も増えてきています。古墳には埴輪列の中に木製の用具を配置した葬送儀礼祭祀が行われていたことが、明らかになってきました。

甲府市甲斐銚子塚古墳は、古墳時代前期の前方後円墳で、後円部先端に

木柱が立てられ、さらに棒状木製品に円盤状木製品と^{わらびて} 蕨手状木製品が組み合わせられた^{さいしぐ} 祭祀具が、埴輪のように古墳に立てられていたと考えられています。

また、奈良から平安時代にかけては、^{ひとがた} 人形・馬形・刀形など形代や^{かたしろ} 齋串と呼ばれる木製祭祀具を使った、人の^{けが} 穢れを^{いの} 祓う祈りが行われたこともわかっています。

この特別展は、土器や石器ではわからない人々の生活ぶりを伝える、貴重なタイムカプセルである木器をご覧いただけるまたとない機会です。

〈主な関連事業〉

■記念講演会「木を作る技術、使う技術」

講師：山田昌久（首都大学東京 大学院教授）

日時：4月21日（日）13:30～15:00

会場：当館講堂

申込：3月31日までに往復はがきまたは電子申請

■吉見町埋蔵文化財センター・吉見百穴見学会

日時：4月26日(金)13:30～15:30 申込不要

集合場所：吉見百穴入口前（駐車場あり）

※なるべく路線バスをご利用ください。

(展示担当 西口正純)

暑いぞ!埼玉

「埼玉の夏祭り」調査と概報作成

2007年夏に40.9度という国内最高気温を記録した熊谷市は、「あついぞ!熊谷」をキャッチコピーにしています。まだ寒さの残る今の時期ですが、夏の話題をちょっと。

埼玉県内では四季折々、各地でさまざまな祭りが行われています。数百年の伝統をもつ祭りもあれば、近年始められた新しい祭りもあります。しかし、そうした歴史的な新旧に関係なく、毎年繰り返される祭りは、私たちの暮らしの中でなくてはならないものとなっています。

「祭り」という言葉の語源は、神を「祀る」ことからきているとされています。四季の祭りにはそれぞれに意味がありました。そのつと神を迎え、酒食を用意して神をもてなすことで人々は、春には春の、秋には秋の目的を遂げようとしたのです。

そうした中、無形民俗文化財調査として今回は夏祭りを取り上げることにいたしました。夏場の3か月間(6・7・8月)に行われる祭りを対象としています。県内で行われている夏祭りの大半は7月、それも7月の中旬から下旬に集中しています。当館の民俗担当学芸員だけでそれを調査するのは不可能に近いため、年次計画による地域分けをして調査を進めることにしました。

今年度は県の東側にあたる北足立・南埼玉・北埼玉・北葛飾の4地区が対象です。さらに今後、平成25年度には入間・比企・大里の3地区、26年度には県の西側に位置する秩父・児玉の2地区を調査することで、県全体を把握したいと考えています。



上戸の蛇曳き(幸手市)



氷川女體神社の名越祓え(さいたま市)

県内にどのような夏祭りがあるかについては、すでに廃絶したものも含めて、市町村史、民俗調査報告書、『埼玉の神社』などの刊行物から情報収集を図ることにしました。その一方で、特徴ある祭りについては職員が現地調査を行い、ビデオ撮影を含めて記録することにしました。今年度は下記の15の祭りを取り上げています。

- ・大宮氷川神社の夏越の祓い(さいたま市)
- ・氷川女體神社の名越祓え(さいたま市)
- ・砂の万灯(さいたま市)
- ・諏訪神社鎌どっかえ(加須市)
- ・やったり踊り(春日部市)
- ・久喜の提灯祭り(久喜市)
- ・鷲宮神社の夏越の祓い(久喜市)
- ・天王様・八坂神社の夏祭り(八潮市)
- ・大般若、大般若祭り(三郷市)
- ・浅間神社の初山(幸手市)
- ・上戸の蛇打ち・蛇曳き(幸手市)
- ・篠津の天王様(白岡市)
- ・下大崎の灯籠祭り(白岡市)
- ・前原のお獅子様(南埼玉郡宮代町)
- ・高野のどじょう施餓鬼(北葛飾郡杉戸町)

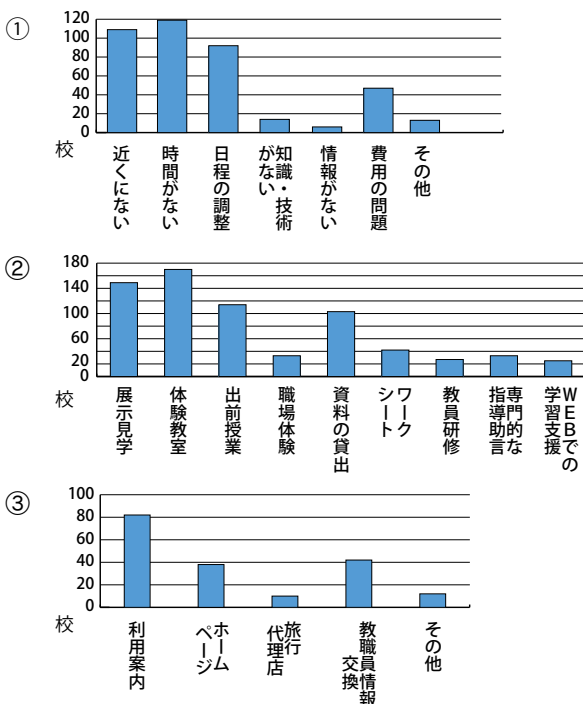
これらの祭りを調査した結果は、年度ごとに『概報』という形で刊行していきます。また、撮影したビデオは展示などで活用していくことも考えています。

(資料調査・活用担当 大久根茂)

博物館と学校の連携について

学習指導要領には、学校が博物館を利用することは、児童・生徒の学習の理解を深めたり、興味を喚起したりすることに大変役立つことが示されています。この稿では、県内小中学校の協力を得て本年度実施したアンケート調査をもとに、博物館と学校のよりよい連携のため、どのような方策が有効なのかをテーマにしたいと思います。

当館では学習支援担当を中心として、学校が博物館利用についてどのような考えをもっているのか知るため、学校向けのアンケート調査を行いました(平成24年6～7月に実施。県東部・南部の小中学校対象。選択式の質問11項目と記述式の意見・感想の回答)。その分析の結果、次に挙げる3つの項目で、連携強化の方策を考える上で重要な回答が得られました。①「博物館を利用されない理由は何ですか?」②「博物館で利用したい学習活動等は何ですか?」③「見学プラン等をどのようなかたちで、お知りになりましたか?」の質問に対して、以下に示すグラフのような結果となりました。



また、記述式の回答からは「展示や体験プログラムは魅力的だが時間確保が難しい」「貸出資料を増やしてほしい」「中学生向けの体験や出前授業があ

るとうれしい」「体験・展示ともに、教育課程に沿ったものを望む」という意見が多く挙げられました。

このアンケート調査から、学校の現状として次の2点が重要であろうと分析しました。ひとつは「博物館を利用するための時間確保が難しい」ということです。これは新学習指導要領の実施以来、授業時間数が増え、校外学習等の時間をとりにくくなっていることが主な理由として考えられます。もうひとつは「学力向上の取組が優先課題である」ということです。先生方の意見にも「学力向上が課題となっており、博物館を利用する場合には、遠足的な利用や興味・関心をもたせるための利用ではなく、授業内容と直接結びつけた『理解を深めさせるため』の利用をさせたい」というものが目立ちました。

このような学校の現状や意見を踏まえた、よりよい連携のあり方として、来館を前提とした見学や体験だけでなく、学校内での学習に対応した様々な形での博物館利用を提案していくことがポイントになると考えています。具体的には資料貸出の充実(資料の写真データも含めて)や出前授業の実施です。出前授業については本年度実施した考古系の出前授業以外にも、いくつかのパターンを開発して実施していく予定です。本来なら、来館してもらい、じっくり見学や体験をしてもらうのが一番です。しかし、現在の学校の現状だと難しいこともありそうです。そのような場合に学校の利用しやすい方法を用意することで、博物館と学校の連携が進んでいくのではないかと思います。

他にも、今回のアンケートでは、博物館からの情報発信が大事であり、またその手段として利用案内のチラシが有効であったことも分かりました。来年度版の利用案内では、内容だけでなくチラシの配布時期にもアンケートの分析を生かし、学校が行事予定を決定する時期に合わせて配布することができました。

学習支援担当では、博物館の有効な教育利用のため、学校の意向を踏まえつつ、幅広い連携のあり方を提案していこうと思います。

(学習支援担当 平井悠一)

歴史のしおり

「北武蔵の農具」とコレクションとしての民俗文化財の価値

3月23日(土)から始まる特別展「発掘された木の道具」では、多くの出土品とともに、近代以降に使用された農具で、国指定重要有形民俗文化財となっている当館所蔵の「北武蔵の農具」からマンノウ(万能)やマンガ(馬鍬)、オオアシ(大足)など17点が展示される予定です。これは、発掘された木製農具と昭和まで使用された農具とを比較検討することを目的とした出品です。

特別展での「北武蔵の農具」の出品は、平成20年に開催した「名もなき至宝—うけつがれし重要有形民俗文化財—」展で16点を展示して以来、5年ぶりのことです。

ところで、「北武蔵の農具」のコレクション、全体で何点あるか御存じでしょうか。

水田用具431点、畑作用具293点、綿作用具158点、養蚕用具244点、運搬用具76点、農具製作用具151点、わら仕事用具93点、信仰儀礼用具60点、仕事着89点、その他45点、全てを合わせると1,640点にもなります。

本来、コレクションとしての有形民俗文化財の価値は、その全体が地域的特色や歴史の変遷、時代的特色などを示している点にあります。しかしながら、民俗文化財のコレクションは資料が多数である場合が多く、全てを一度に展示することは難しいのが現状です。

ちなみに、「北武蔵の農具」のコレクションとし



「北武蔵の農具」よりオオアシ
(採集地：越生町。植田に緑肥を踏み込むのに使用。特別展「発掘された木の道具」展示資料。)

ての価値は質・量両面にわたるもので、種を肥料に混ぜて撒くという共通点のある、麦のタレマキ法と稲の摘田など、埼玉県的地域的特色のある農耕に用いられるものを中心に、水田・畑作・綿作など各種の農具が播種から収穫調整に至るまで網羅され、さらに農耕に関わる信仰・儀礼用具や仕事着などの関連資料までが収集されている点にあります。

「北武蔵の農具」の他にも、当館が所蔵する民俗文化財のコレクションは、次の県指定有形民俗文化財6件など、数多くあります。

- ①「赤山波生産用具及び波小屋」99点
- ②「岡田家芝居衣裳・用具」462点
- ③「石山家芝居衣裳・用具及び芝居台本」291点
- ④「中本家神楽師用具」257点
- ⑤「押絵羽子板面相師関係資料」5,548点
- ⑥「江戸川の船大工用具と漁船」1,206点

99点という一見少なそうですが、資料には大型のものも多く、残念ながら、どのコレクションも、一度に全点が展示されたことはありません。

これまで、こうしたコレクションの全体像を御覧いただく手段は、目録と写真、実測図などを収録した書籍によるしかありませんでした。しかし、この3月からインターネットによる当館収蔵資料のデータベースの閲覧という新しい方法が加わります。

データベースには当館が所蔵する全資料について、名称や写真、法量、採集地、文化財の指定区分など、資料の概要を知ることの出来る基本的情報が収録されています。

インターネットから、お好みの土器や鎧、絵巻などを1点ずつ御覧いただけるのはもちろんですが、民俗文化財については、「北武蔵の農具」などのキーワードで、展示だけでは十分にお伝えすることの出来ないコレクションの全体像を知るための手段としても、ご活用いただきたいと思います。

収蔵資料データベースの公開はまもなくです。特別展「発掘された木の道具」と併せて御覧いただき、お楽しみいただきたいと思います。

(データベースではさきたま史跡の博物館・嵐山史跡の博物館・川の博物館の資料もご覧いただけます。)

(企画担当 内田幸彦)

弥生土器の研究は、明治17(1884)年に東京市本郷区向ヶ岡弥生町(現在の文京区弥生)にあった向ヶ岡貝塚で、東京大学予備門の生徒であった有坂紹蔵と東京大学の学生であった坪井正五郎、白井光太郎が発見した1点の土器が端緒となった。その土器は、口縁部から頸部までが欠損した壺形土器で、従前に知られていた縄文土器とは様相が異なることから、土器の出土した地名を冠し、発見された土器は「弥生式土器」、その土器の時代名称は「弥生時代」と命名されました。

最初に発見された壺形土器は、肩部に「く」の字状の羽状縄文が施文されており、頸部に3個を1単位とする円形浮文と呼ばれる豆粒状の粘土を貼り付けた装飾が施されたもので、東海地方東部の土器の影響を受け、関東地方南部で製作されたものと考えられています。この第1号弥生土器は、その歴史的資料価値から国の重要文化財に指定され、東京大学総合研究博物館に所蔵されています。

土器が出土した向ヶ岡貝塚については、後世の開発により景観が変わってしまったため正確な位置が不明になってしまい、場所の確定には至っていません。未だ出土地点の論争が続いており、東京大学農学部や工学部付近にその場所が推測されています。現在その出土地と推定される範囲の弥生2丁目には、昭和61

(1986)年に地元の有志により「弥生式土器発掘ゆかりの地」の碑が建立されています。

向ヶ岡貝塚は、その遺跡名称のとおり縄文時代の貝塚でもあるため、弥生時



弥生町に建つ土器発見の記念碑

代の遺跡としての名称は弥生町遺跡群と呼称されています。周辺の遺跡は、東京大学埋蔵文化財調査室等により精力的に調査・研究が進められ、国指定史跡の弥生二丁目遺跡では集落を巡る環濠が、浅野地区工学部武田先端知ビル地点ではガラス玉が出土した方形周溝墓が検出されています。

博物館だより第18・19号でも紹介しましたが、当博物館が所在する場所は、縄文・弥生時代の複合遺跡である大宮公園内遺跡に当たり、昭和27(1952)年に第1次の発掘調査が行われ、竪穴式住居跡が検出されました。その後の調査でも、弥生時代後期の方形周溝墓が検出され、土器の焼成後に底部が意図的に穿孔された完形の壺形土器(常設展示室で展示中)が出土しています。壺形土器は、口縁部内面と外面の文様帯を除く部分にベンガラによる赤色塗彩が施され、肩部外面に右下がりの斜縄文と山形文が巡る美しい弥生土器です。

季節展示室では5月6日まで弥生時代後期の土器文様に表現された意匠の美にスポットを当てた「弥生土器の美」というミニ展示を開催中です。展示では、大宮公園内遺跡で出土した高坏形土器をはじめ、さいたま市中央区中里前原遺跡出土の壺形土器、坂戸市花影遺跡出土の無頸壺形土器などの装飾の美しい弥生土器の優品をご紹介しますので、ぜひ足を運んでいただき、弥生の造形美をご鑑賞いただければと思います。

(展示担当 中山浩彦)



大宮公園内遺跡で出土した壺・高坏形土器

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報(3月～6月)



埼玉県のマスコット
コバケン

■特別展「発掘された木の道具」を、3月23日(土)～5月6日(月・振休)まで開催します。

3月

- 2日(土) 博物館裏方探検隊
- 9日(土) 博物館裏方探検隊
- 16日(土) 博物館裏方探検隊
- 17日(日) ミュージアムトーク
- 20日(水・祝) 博物館春まつり
- 23日(土) 特別展「発掘された木の道具」オープン
特別展展示解説、火起こし体験教室、
博物館裏方探検隊
- 30日(土) 特別展展示解説、博物館裏方探検隊

4月

- 6日(土) 特別展展示解説、博物館裏方探検隊
- 13日(土) 歴史民俗講座「木器からわかること」
十二単の着装体験、博物館裏方探検隊
- 20日(土) 特別展展示解説、博物館裏方探検隊
- 21日(日) 特別展記念講演会
- 26日(金) 遺跡見学会
- 27日(土) 特別展展示解説、博物館裏方探検隊

5月

- 3日(金・祝) 博物館子どもまつり
- 4日(土・祝) 特別展展示解説、博物館裏方探検隊
- 6日(月・振休) 特別展「発掘された木の道具」最終日
- 11日(土) 博物館裏方探検隊
- 17日(金) 民俗工芸実演(現地見学会)「製材加工」
- 18日(土) 十二単・直衣の着装体験
博物館裏方探検隊
- 23日(木) 藍の絞り染め風呂敷作り
- 25日(土) 博物館裏方探検隊

6月

- 1日(土) 民俗芸能講習会
(6月1日・8日・15日・29日の全4回)
博物館裏方探検隊
- 8日(土) 博物館裏方探検隊
- 15日(土) 博物館裏方探検隊
- 17日(月)～24日(月) 館内消毒に伴う臨時休館
- 29日(土) 博物館裏方探検隊

常設展「指定文化財」
4月16日(火)～6月16日(日)
国宝「慈光寺経」特別公開

博物館への資料寄贈をお考えの方へ

まずお電話で御一報ください。

TEL:048-645-8171(資料調査・活用担当)

詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/?page_id=261

次回企画展予告

絵で語る埼玉の民話 ～池原昭治 童絵の世界～

7月20日(土)～9月1日(日)

あの有名なアニメ「まんが日本昔ばなし」の制作にも関わり、「童絵」という独特の画風で知られる池原昭治氏が埼玉県内に伝わるさまざまな民話をテーマに描いた作品を展示します。



■交通機関
東武野田線・大宮公園駅下車徒歩5分

埼玉県立 歴史と民俗の博物館 (編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地

TEL. 048-641-0890 (管理)

048-645-8171 (学芸)

FAX. 048-640-1964

<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.7-3(通巻)第21号
2013年3月1日発行